

京都国立近代美術館所蔵

# 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新に向けて

2019年4月13日(土)～6月9日(日)  
目黒区美術館

午前10時～午後6時(入館は午後5時30分まで)

休館日:毎週月曜日(ただし4月29日と5月6日は開館)、4月30日(火・休)、5月7日(火)

一般800(600)円、高大生・65歳以上600(500)円、小中生以下無料

\*( )内は20名以上の団体料金 \*障がいのある方とその付添者1名は無料

\*目黒区在住・在勤・在学の方は受付で証明書類のご提示で団体料金になります

主催:(公財)目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、京都国立近代美術館



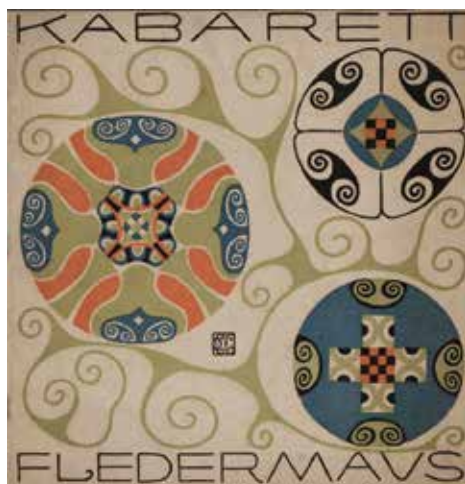
## 展覧会概要

目黒区美術館は、1987年の開館以来、近現代の美術だけでなく、生活美術やデザイン、建築といった分野にも着目し、企画展やワークショップの活動に反映させてきました。その中で、2009年に開催した『上野伊三郎+リチ コレクション展ーウィーンから京都へ、建築から工芸へ』は、京都国立近代美術館のご協力により、同館所蔵の、1920年代にウィーン分離派のヨーゼフ・ホフマンに建築を学んだ上野伊三郎とウィーン工房でデザイナーとして活躍したフェリーツェ・リックス(上野リチ)夫妻の作品・資料群を一堂に紹介したものでした。

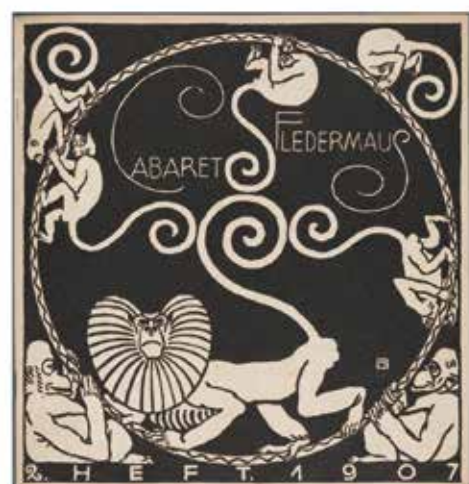
2015年、京都国立近代美術館の収蔵品には、新たに世紀末ウィーンの優れたグラフィック作品がまとまった形で加わりました。当時のウィーンで生み出された版画や挿絵本とその原画、装丁、壁画の原画など、多様な表現による作品群で、アパレル会社キャビンの創業者、平明 暘(ひらあきいずる)氏が蒐集したコレクションです。そして、2019年1月から2月にかけて、京都国立近代美術館で同コレクションの全貌が紹介されました。これに続き、今春、目黒区美術館で『世紀末ウィーンのグラフィック』展を開催いたします。

1897年のウィーン分離派設立から1914年の第一次世界大戦勃発まで、世紀末から二十世紀初頭のウィーンでは、グスタフ・クリムトやヨーゼフ・ホフマンらを中心に、新しい時代に相応しい芸術、そしてデザインの在り方が模索され、絵画、彫刻、建築をはじめ数多くの素晴らしい作品が生まれました。中でもグラフィックの分野は、印刷技術の発展や雑誌メディアの隆盛を背景にめざましく発展し、新しい芸術の動向を人々に伝え、社会に浸透させる上でも重要な役割を担いました。

本展は、京都国立近代美術館所蔵の約300件にのぼる膨大なグラフィック作品のコレクションを中心に、同じく平明氏旧蔵のリヒャルト・ルクシュによる石膏彫像と貴重なアドルフ・ロースの家具一式を加え、世紀末ウィーンの息吹と魅力をお伝えします。



①『キャバレー〈フledermaウス〉上演本』第1号  
(表紙・装丁:カール・オットー・チェシュカ)  
1907年



②『キャバレー〈フledermaウス〉上演本』第2号  
(表紙:モーリツ・ユンク、装丁:カール・オットー・チェシュカ)  
1907年

## 展覧会構成

### 1 ウィーン分離派とクリムト The Vienna Secession and Klimt

1897年に、「時代にはその芸術を、芸術にはその自由を」という有名なモットーを掲げてウィーン分離派（正式名称：オーストリア造形芸術家協会）が結成されました。芸術・デザインの刷新を求める彼らが重視した活動が、展覧会活動と機関誌『ヴェル・サクルム（聖なる春）』の刊行です。本章では、各展覧会のカタログと『ヴェル・サクルム』の紹介を通して、ウィーン分離派の根幹をなす活動を概観するとともに、分離派の中心人物であるクリムトやその後継者であるエゴン・シーレとオスカー・ココシュカの素描作品を紹介します。

### 2 新しいデザインの探求 The Quest for New Design

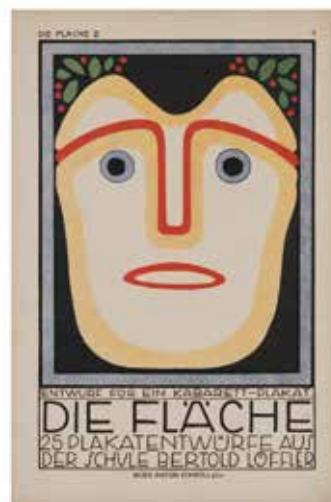
カラー印刷技術や写真製版技術の発展を背景に、当時、デザイン刷新の参考とすべく数多くの図案集が刊行されました。中でもカール・オットー・チェシュカやコロマン・モーザーが製作に参加した『ディ・クヴェレ（泉）』シリーズやベルトルト・レフラーによる『ディ・フレッヒェ（平面）』で提案された多彩な図案は、今なお新鮮さを失っていません。本章では、人々を魅了した図案集の数々を紹介するとともに、そのデザイナーの人材輩出の場としてのウィーン工芸学校、活動の場としてのウィーン工房に注目します。さらに建築家たちの新たな取り組みを、オットー・ヴァーグナー、ヨーゼフ・ホフマンそしてアドルフ・ロースの作品に探ります。

### 3 版画復興とグラフィックの刷新 The Prints Revival and Innovation of Graphic Arts

19世紀における写真の発明は、それまで視覚情報の複製や記録といった役割を担ってきた版画の存在意義を大きく揺るがし、芸術としての版画への模索という動きを生み出しました。その際に積極的に参照されたのが、当時西欧で大きなブームとなっていた日本の多色木版画です。作品として制作された版画は、絵画に比して廉価ということもあり、広く人々の生活を彩ることになりました。本章では、木版画やリトグラフなど多様な版画手法における新たな試み、そしてその試行錯誤がうかがえる素描の魅力を紹介します。



③ グスタフ・クリムト  
《ウィーン分離派の蔵書票》  
1900年頃



④ ベルトルト・レフラー(編)  
『ディ・フレッヒェ(平面)』—装飾デザイン集(新シリーズ)第Ⅱ巻』  
1910-11年



⑤ ルートヴィヒ・ハインリヒ・ユンクニッケル  
《三羽の青い鸚鵡》(連作「シェーンブルンの動物たち」より)  
1909年頃



## 4 新しい生活へ Towards a New Way of Life

グラフィックにおける新たな試みは、当時盛んに刊行された美術雑誌や挿画入り雑誌だけではなく、様々な媒体を通して人々の生活へと浸透していきました。日々新しいグラフィック・デザインに触れること、それは生活における新たな意識を生み出すことにも繋がりました。本章では、ポスターやカレンダー、蔵書票といった日常生活に関わるグラフィックの新たなデザイン、そしてグラフィックの刷新を担った人々がてがけた書籍の装丁や挿画の魅力を紹介します。

### 関連イベント

#### 【講演会 ①】

2019年4月20日(土) 14:00～15:30

「世紀末ウィーンとグラフィック — 総合芸術に見る民主化の試み」

講師：池田祐子(国立西洋美術館主任研究員、本展企画者)

#### 【講演会 ②】

2019年5月12日(日) 14:00～15:30

「世紀末ウィーンの世界と文化」

講師：山之内克子(神戸市外国語大学教授[オーストリア、ウィーン文化史])

#### 【大人のための美術カフェ〈特別編〉】

2019年5月26日(日) 14:00～15:30

「様式のない時代は可能か — 世紀末ウィーンの建築から考える」

講師：本橋 仁(京都国立近代美術館特定研究員)

\* 各回定員 70 名(先着・席に限りがあります)

\* 聴講無料(ただし当日有効の本展観覧券が必要です)

### 展覧会図録

下記図録を、本展開催に合わせて、当館1階ミュージアム・ショップおよび当館ウェブサイトのカタログショップで販売いたします。

『京都国立近代美術館所蔵  
世紀末ウィーンのグラフィック  
デザインそして生活の刷新に向けて』

編集：池田祐子、本橋仁、牧口千夏  
発行：京都国立近代美術館 ©2019 京都国立近代美術館  
定価：2,200 円(税込)

B5版 変形サイズ | 391 ページ



⑥ フランツ・フォン・ツェーロウ  
《月刊帳 1915年3月版》1915年



⑦ グスタフ・クリムト  
《右向きの浮遊する男性裸像》(ウィーン大学  
大広間天井画《哲学》のための習作)  
1897-99年



⑧ カール・モル  
《ハイリゲンシュタットの聖ミハエル教会》  
1903年



⑨ フェルディナント・アンドリ  
《ライ麦おばさん》  
(アウグスト・コピッシュ『精選詩集』「ゲルラ  
ハ青少年叢書 第13巻」のための挿絵)  
1903年頃

## 開催情報

タイトル	京都国立近代美術館所蔵 世紀末ウィーンのグラフィック デザインそして生活の刷新に向けて
会 期	2019年4月13日(土)～6月9日(日)
会 場	目黒区美術館 (東京都目黒区目黒 2-4-36)
開館時間	午前10時～午後6時 (入館は午後5時30分まで)
休 館 日	毎週月曜日(ただし4月29日と5月6日は開館)、4月30日(火・祝)、5月7日(火)
観 覧 料	一般800(600)円、高大生・65歳以上600(500)円、小中生 無料 *( )内は20名以上の団体料金 *障がいのある方とその付添者1名は無料 *目黒区在住・在勤・在学の方は受付で証明書類のご提示で団体料金になります
主 催	公益財団法人目黒区芸術文化振興財団 目黒区美術館、京都国立近代美術館
企 画	池田祐子 (国立西洋美術館主任研究員)
交通機関	JR山手線・東急目黒線・東京メトロ南北線・都営三田線「目黒」駅(西口)から徒歩10分 東急東横線・東京メトロ日比谷線「中目黒」駅から徒歩20分 東急バス「権之助坂」(目黒通り)下車徒歩5分、「田道小学校入口」(山手通り)下車徒歩3分

## 広報写真

本リリース掲載の図版画像を本展広報用写真としてご提供いたします。図版の左下①～⑨が図版番号です。  
ご希望の方は、申込用紙(5ページ目)の内容をご確認の上、必要事項をお書き添えいただき、FAXでお申し込みいただくか、  
同内容を本展担当者宛メールにてお申し込みください。

## 本展の問い合わせ先

目黒区美術館 展覧会担当：佐川 / 広報担当：竹森  
〒153-0063 東京都目黒区目黒 2-4-36 tel. 03-3714-1201(代) fax. 03-3715-9328  
e-mail: mmatoffice@mmat.jp https://www.mmat.jp

本展は下記の会場・会期で巡回いたします

2019年1月12日(土)～2月24日(日) 京都国立近代美術館  
4月13日(土)～6月9日(日) 目黒区美術館

\*各会場で出品作品、作品点数が変更になる場合があります。

宛先：目黒区美術館 [担当] 佐川・竹森 宛て  
 FAX：03-3715-9328 E-mail：mmatoffice@mmat.jp

■ 本票に必要事項をご記入のうえ、上記宛先まで FAX でお申し込みいただくか、メールにて本票と同内容の事項とご希望の画像番号をお知らせ下さい。掲載紙・誌を1部ご寄贈くださいますようお願い申し上げます。

お申し込み日	年 月 日		
御社名			
ご担当者氏名			
住 所	〒		
TEL		FAX	
E-mail			
掲示媒体名 (雑誌名など)			
メディアの形態	【紙媒体】 新聞 / 雑誌 / ミニコミ誌 / フリーペーパー / その他 ( ) 【電子媒体】 テレビ / ラジオ / WEB サイト / 携帯サイト / その他 ( )		
発行・放送予定日	年 月 日		
ご希望の画像	図版番号 ①～⑨のご希望の図版番号をご記入ください	使用条件等 * 写真画像への文字載せは不可です。 * 写真の画像加工(トリミング・色調整など)は不可。但し、モノクロで使用の場合は、コントラスト、ガンマ値の適宜調整を許可する場合があります。 * キャプション、クレジットは必ず明記してください。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;">                     *①～⑨の図版の全てに「京都国立近代美術館所蔵」を併記してください。                 </div>
連絡欄			

- お申し込み受け付け後、画像データ(JPEG)のダウンロード先を返信でお知らせいたします。お手元の環境等によりダウンロードできない場合は別途ご連絡ください。
- 使用にあたっては、【広報用画像について】の内容をご了承いただくことが条件となります。必ずご確認くださいませますようお願いいたします。

**【広報用画像について】**

- ・ 画像データはメールにて送付いたします。
- ・ 画像は展覧会紹介の目的のみにご使用ください。
- ・ データを第三者に渡すことは禁止いたします。
- ・ 使用後、データは破棄してください。
- ・ 展覧会の名称、期間、会場などの情報は分かりやすく掲載してください。
- ・ 画像への文字載せは不可です。
- ・ 画像使用の際は、キャプション、クレジットを明記してください。
- ・ 掲載誌(紙)は1部、当館担当者までお送りください。
- ・ Web サイトは公開後に URL をお知らせください。
- ・ 当館が掲載内容を確認できるように、掲載前に校正をお送りください。

◎ 本展を紹介して下さる媒体には、展覧会の招待券(5組10名様)を読者プレゼント用に提供いたします。ご希望の方は下記にご記入ください。  
 読者プレゼント用招待券を [ 希望する ・ しない ]

<広報用画像に関する問い合わせ先>  
 目黒区美術館  
 TEL.03-3714-1201 / FAX.03-3715-9328  
 展覧会担当(学芸)：佐川  
 広報担当(事務)：竹森